

演劇サークル活動再開のための意見交換会（第1回）

2021/04/27 オンライン開催

【各サークルへの質問とその回答】

- Q1. 大学から受けている制限
- Q2. 昨年度、今年度の新入生勧誘状況および総部員数
- Q3. 活動（稽古・公演）のためのガイドラインの有無
- Q4. 今年の活動予定（予定が立てられていない場合はその理由も）
- Q5. 現在行っている活動
- Q6. コロナ禍前後で部員の参加態度や様子、活動参加率の変化

■ 劇団でゆみなす（藤女子大）

- Q1. 対面での活動は大学からの許可があれば認められていたが、4月26日より「対面活動禁止」に。
- Q2. 昨年度の新入生は3人、部員総数は11人。今年度は大学主催の新入生歓迎会、サークル説明会にて勧誘を行ったところ、興味を示してくれた新入生が数名いるが、活動制限により見学の日程を提示できず、新入生に待機してもらっている。そのため、今年度の正式な入部者は0人。
- Q3. 昨年秋の時点では大学側のガイドラインが存在しなかったため、対校祭出場とそれに伴う稽古のために劇団独自の活動ガイドラインを作成し、大学に提出した。その後、大学側からガイドラインが提示されたため、現在はそちらに則って活動している。また、大学側の活動ガイドラインでは活動の条件として、具体的な感染対策を明記した「活動申請書の提出」が要求されている。
- Q4. 対校祭は出場予定だが、現在の対面活動禁止措置が続けば事実上不可能。同様の理由で、例年参加している学校祭や単独公演も予定は立てられない状況にある。
- Q5. 昨年秋の対校祭以来、稽古ができていない。新入生の勧誘は少しだけ進んだようだが、現時点で部員同士が対面で活動する予定はない。

■ 演劇戦線（小樽商科大）

- Q1. 大学は『2021年4月14日付の本学新型コロナウイルス・危機対策本部会議の決定』を受け、4月15日移行に開催される対外試合や大会への参加、イベント等（人が集まるような催し物）の参加・開催についても、確認書等の必要書類を学生支援係へ提出し、感染防止対策が十分に講じられていると確認できるものについては、許可する」との見解を示している。現状、ある程度の課外活動は認められている。しかし、以前には他大学等の学外者との交流を含む活動は全面的に禁じられたことがあり、今後も同様な事態になる可能性がある。
- Q2. 昨年度の新入部員は0人。今年度は2年生が2人入部。しかし、引退した4年生を除

くと総部員数は4人であり、厳しい状況。

Q3. サークルとしてガイドラインは特に作成していない。

Q4. 初夏の学校祭で公演を行いたいと思っているが、学校祭がオンライン開催となったため形式が掴めていない。また、引継ぎが不十分であること、部員の意欲低下により、具体的な準備や活動はできていない。

Q5. 特に活動していない。

Q6. 部員の活動意欲があまり高くない。

■ 劇団 SON's SUN

Q1. 4月26日までは、人数、時間が制限されていながらも対面稽古ができていた。しかし、大学側から、4月26日付で、4月24日～5月11日の期間中、対面での活動を行うことが難しくなる旨を伝えられた（札幌市の「ゴールデンウィーク特別対策」に準じている？）。

Q2. 昨年度は9名、今年度は4名入部。現時点での総部員数は19名。勧誘活動は、Twitter等オンラインを拠点に展開した。対面での勧誘活動は、「勧誘ウィーク」（大学側が用意）の期間中、対面ブースにて勧誘活動を実施。部員数的には、来年度以降の活動に支障はなさそう。

Q3. ガイドラインは作成した。教室に入る前のアルコール消毒、徹底した換気、使用した美品の消毒、ソーシャルディスタンスの確保等が盛り込まれている。

Q4. 今年冬（11月～12月めど）に自主公演を予定。対校祭への参加は出演しない方向で話が進んでいる。自主公演に向かって全員で活動しているような状況。

Q5. 対面で活動できていたときには、ストレッチ、声出し、体幹トレーニング、エチュード、本読み等を実施。オンラインでは声出しとエチュードの実施が困難になると見込まれる。

Q6. 昨年はオンライン稽古だったが、最近、対面稽古ができるようになってきて、対面稽古の方が活気はあるように思う。活動参加率も対面稽古の方が高い。

■ 北海学園大学演劇研究会

Q1. マスクをして稽古、活動回数は週5回、消毒と検温の実施、活動申請書・活動報告書・コロナ対策シートの提出（毎月提出）。提出書類を大学側に認可してもらうことで活動ができるようになる。昨年からのシステムに大きな変化はない（「まん防」による影響などはみられない）。

○ 大学側に対する不満や不安は？

現在（4/27）、配信公演に向けて小屋入り中だが、活動許可が小屋入り前日に下りるなど、活動が許可されるまで時間がかかる。

Q2. 公式LINEを設置し、過去の公演動画を見られるようにしたほか、（自治体主催の）サークルPR大会で勧誘（オンライン開催）。現時点で入部を検討しているのは6人。昨年度は4人。現在は全体で総部員38人。以前は70～80人ほどが在籍していたが、現在は半分以下に。

Q3. 独自のガイドラインを作成。検温して記録する等の内容を盛り込んでいる。作成にあたって、公営財団法人全国公立文化施設協会の劇場向けガイドラインを参考にした (https://www.zenkoubun.jp/covid_19/files/0918covid_19.pdf)。

また、ガイドラインに盛り込んではいないが、今回の小屋入り時に PCR 検査を実施。

Q4. これから話し合っで決める。

Q5. 週4回、大学の教室で稽古を実施。

○ 活動において困ったこと

常時マスクを着用しているため、発生練習の際などに息苦しさを感じたり相手の表情が見えなかつたりする。

Q6. 活動ができない期間が長く、辞めてしまった部員がいた。新入生がなかなか入らず、全体的に引き継ぎを行えていない。大道具、小道具、衣装のセクションがあるが、人数の振り分けができない。1人あたりの負担が大きくなってしまう。

※ 北海学園大学演劇研究会は、4月30日～5月1日に BLOCH で配信公演を実施。

■ 北海道教育大学釧路校 演劇集団ウポポ

Q1. 釧路は札幌ほど厳しくないと思う。マスク着用やディスタンスの確保。稽古・公演の実施時は企画書の提出が必要。企画書が認可されれば、稽古・WS・公演を開催できる。釧路演劇協議会に加盟しているが、そのイベントに参加することもある。

Q2. 現時点の全部員数は12人（2年生2人、1年生4人）。ただし、このうち4年生が6人なので、就職活動などで人数不足に直面するおそれがある。

Q3. サークルでは作成していない。大学側からステージ使用する団体向けのガイドラインが提示されているため、それに従って活動している。

Q4. 5月下旬に学内で新入生歓迎公演を開催予定。学外の観客を呼ぶと企画が通りにくいので、収録を YouTube で配信する形で。以降もガイドラインを遵守しつつ、学校祭（10月）・卒業公演をひっそりで行いたい。

Q5. 現在は新入生歓迎公演に向けて活動している。

Q6. 自分の世界にこもって考えるような部員が多いので、コロナ禍で何ができるかを積極的に考えている。落語会（1人だけステージに登壇）、YouTuber のような活動を実施。コロナ禍を楽しむような工夫ができています。もし、対校祭が映像参加になればぜひ参加したい。

■ 札幌市立大学演劇部デンコラ

Q1. （参加団体の中では）最も制限を受けているのではないかと、思う。対面で稽古を実施している団体があることに驚いたほど。市が設置する大学ということもあり、制約が比較的厳しい。対面で最後に活動できたのが、昨年2月に名古屋で実施された全国大会。新歓活動場所も立ち入り禁止に。昨年は、学祭公演も予定していたものの、オンライン開催と

演劇サークル活動再開のための意見交換会（第1回）

なったのでできず。以後、基本的にリモートで行っている。最近、大学側からの許可があれば活動ができるようになったが、申請は通りにくそう。しかし、厳格な制約下で申請可能になったことに希望を見いだしたい。

Q2. 昨年度は4人。今年度は、YouTube等で勧誘活動を実施したところ（デザインを学んでいる大学なので、編集技術やグラフィックデザインを極められた）6人の勧誘に成功。部員は全体で20人弱。

Q3. もともと活動ができていなかったため、ガイドラインはない。

Q4. 今年は、対面で活動ができるようになれば活動していきたい。対校祭も映像で参加できるようにであれば参加したい。

Q6. 対面だと集まりは良かったが、オンラインだと連絡がとれないことがあったり、突然欠席する部員がいたり…。全体の士気が下がっている？

- 市立大の内部でサークル活動再開を求める声は？
「望んでも無駄だな」という状況。完全に檻に入れられている感じ。
- YouTubeにアップする映像はどこで撮影したのか？
Microsoft TeamsやZoom上で撮影。ボードゲームや演劇を行った。生配信を行ったこともある。
- 施設利用料は学費に含まれている？
詳細はわからない。含まれていないのではないかと。
*私大は学費に施設利用料が含まれているために活動が許可されている？
- デンコラ名義で外部施設を利用した公演を実施するのは？
現在、最もNGな行為なのでできない。

■ 北星学園大学演劇サークル

Q1. （現在は再び対面活動が禁じられてしまったが）4月からは対面の活動ができた。大学側からはマスク着用・検温、サークルでの活動ガイドラインの提出が要求されていた。昨年「対校祭」を観劇した際には、ガイドラインを遵守していることの証明が求められた。普段の学内での活動では証明は求められないが、学外でイベントを行うとき・参加するときに証明が求められる。

Q2. 昨年度4人、今年度4人（2年1人、1年3人）が入部。全体で12人。

Q4. 6月に公演を行おうとしたが、許可が下りず。映像を10月の学校祭に向けて制作していく予定。

Q6. オンライン活動や今年4月からの対面稽古では、部員の参加可能日がそれぞれ異なるため、部員が集まらない。

- 不安なことは？
会計や副部長が4年。基本的には2年生が役職に就くが、現状では繰り上がって

る。しかし、1年生は何もわからない状況なので役職を任せるわけにもいかず。テクニカル面も同様に引き継いでいない。

■ 劇団しろちゃん

Q1. 最近（4/12～）になって、大学内の方針が変更になり、サークル会館は人数を守れば対面での活動ができるように。（正確な資料がないのでわからないが）サークル会館の利用人数は（最大で）7人以下であれば対面で可能。サークル会館を利用する際は、部屋を予約する必要があるが、その申請ができず。使用できるのは、しろちゃんの部室のみ。

Q2. 昨年度12人。今年度は6人。全体で70人ほどが在籍。

Q3. しろちゃん独自の感染防止ガイドラインを作成し、大学側に提出。劇場のガイドライン、大学側からの要望に基づいて作成した。

Q4. オンラインで読み合わせをするような予定はあるが、その他はない。本来であれば、学祭公演に向けて新入生を各部署に振り分けるなどしている時期だった。また、現段階で北大祭を延期。時期も未定なので、春公演（小さな公演）をオンラインで打てれば、と考えている。公演のハードルを下げることを検討。

Q6. 活動という活動ができていない。人数は多いが、全体で何かをすることができていない。対面で活動していた時期は集まりが良かった。しかし、オンライン活動ではまばらに。

○ 対面で集まれないことに対して、部員は？

不満は確実にあると思う。オンラインでは制約が多いので。

○ 現在、しろちゃんが抱えている不安は？

舞台を組むためのノウハウが後輩たちに伝える機会が少ないため、引き継ぎが難しくなっている。特に、音響や照明は、概念的な部分は教えられるが、本番のオペレートに関しては機材を囲んで学ばないことにはできないようにならない。入部しても芝居がどのようなものかわからず、作る側になり得ない（水野）。

【各団体の現状を踏まえて】

1. どの団体からも「テクニカル面、運営面での引継ぎ」が困難であるとの声が出たが、サークル側での工夫・検討は？

○ 劇団しろちゃん（音響担当から）

昨年の夏ごろにオンラインで未経験者向けの音響講習会を実施した。音響に興味を持った部員が現れるなどの効果があった。他団体と協力することもできている。

また、対校祭（昨年11月）ではイベント全体の音響を担当したが、他団体の様子を見ていると、使用しているソフトが団体ごとに異なり、中には知らないソフトを使いこなしている団体もあった。団体の垣根を越えた意見交換の場が越えて存在すれば、改善点やアドバイスの共有もできてよいのでは。

※ しろちゃん、学園演研はBLOCHで公演を打つことで引継ぎも行っていた。

○ 北海道教育大学釧路校演劇集団ウポガ

機材に関する知識のあるメンバーがほぼいない。これまでは、先輩が年1回、音響編集の講習会を開催してくれていた。照明は、小学校の劇用の照明を使ってなんとなく凌いでいた。釧路演劇協議会の協力をいただくこともあるが、大人と学生では、（経済的に）借りられる機材も限られているため、難儀している。

○ 札幌市立大学演劇部デンコラ

卒業公演は劇場で開催。先輩方から教わってオペレーションしていた。現在の3年生も会場で音響・照明を完璧にできるかは不安。高校からの経験者が少ないので厳しい状況にある。3年生の卒業後は、事態がより深刻になりそう。

2. 「センス磨き」について

音響・照明のタイミングやチョイスはオペレータの「センス」に依存する部分があるが、それを磨く活動はできないものか？ どのように磨いていけば良いか？

○ 劇団しろちゃん（音響担当）

しろちゃんにはオペレーターとプランナー（音を選ぶ人）がいる。しろちゃんの公演活動は2ヶ月に及ぶこともある。試行錯誤を繰り返して芝居を作り上げている。演出家からたくさん指示を出してくる場合もあれば、わからないから一緒に考えていこう、というケースも少なくない。大きな公演を経験しないことにはセンスは身に付かないのでは。

3. 映像配信の活用について

○ 映像配信は検討しているか？

・札幌市立大デンコラが映像配信を始められたのはなぜ？

→ デンコラの前代表がサッポロシアターのコンテンツを見て触発された。

前代表が映像を専攻していたため、始めることができた。

○ 札幌で映像を用いた学生演劇のイベントの開催？

→ 例えば、サッポロシアターとの連携（大人との連携）

○ 映像演劇と舞台の違いは？

→ 疑問の規模が大きいので今回は保留

4. 北海道の演劇サークル全体でガイドラインを作成する

札幌の演劇活動が再開傾向にあるのは、札幌市、劇場、団体それぞれが、ガイドライン

演劇サークル活動再開のための意見交換会（第1回）

を提示していることが大きな理由なのではないか。では、北海道の演劇サークル全体でガイドラインを作成することはできないか？ 大学側と交渉する際の材料として使えるようなものがあれば良いのではないか（ただし、ガイドラインを使用するか否かは各団体に任せる）。

→ 具体的な検討は、第2回（6月中旬開催）で実施